令和２年度　特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

21 世紀型教育の深化と拡大

学校法人工学院大学
工学院大学附属中学校・高等学校

～工学院大学附属中学校・高等学校～

東京都下の八王子市。その玄関口のＪＲ八王子駅からバスと徒歩で約20分、神奈川県の丹沢山系の峰々を遠くに望むなだらかな坂の途中に、工学院大学附属中学校・高等学校の校舎が現れます。

工学院大学附属中学校・高等学校を設置する学校法人工学院大学の歴史は、明治20（１８８７）年の工手学校設立協議会の開催を始まりとします。工手学校は、翌年、東京・築地で開校しました。設立協議会の開催から１３３年、現在では、大学院・大学・高等学校・中学校を擁する総合学園です。

建学の精神には、「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」を掲げます。

工学院大学附属中学校・高等学校の前身・工学院工業学校は、昭和19（１９４４）年の開校です。

高等学校は、中学校からの内部進学者と高等学校からの入学者の割合が概ね一対二です。同校では６年間を通じた縦のつながりも大切にしつつ、高等学校からの入学者との融和を重んじ、両者が協調できるよう配慮しています。

高等学校校舎の外観

【21 世紀型教育が目指すもの】

工学院大学附属中学校・高等学校が標榜する教育は、「21 世紀型教育」です。

同校の 21 世紀型教育の源泉は、特に戦後教育の中で 70 年以上続けてきた 20 世紀社会が要請した基礎学力の強化、つまり「知識偏重」の教育に楔を打ち込み、「受験知」から「探求知」へのパラダイムシフトを学校教育に求めたところにありました。探求知は変容するグローバル社会(世界）に不可欠な学力であると、同校は確信していたからです。

平方邦行校長は、「21 世紀型教育は他から導入したものではなく、20 世紀の知識偏重の教育に対する新たな概念として自ら創り出したものを、仲間と共有したものです」と語り、「変容を続けるグローバル社会は、たくさんの予測不能な出来事で満ち溢れています。その未来で活躍し、世界で貢献できるのは、創造的で高次な思考力を持つ若者であると思います。本校が進める21世紀型教育の根底にあるのは『黄金律』であり、Ｇｌｏｂａｌ Ｇｏａｌｓを解決できるＧｌｏｂａｌ Ｃｉｔｉｚｅｎを育成することを目指しています。そして、Ｇｒｏｗｔｈ Ｍｉｎｄｓｅｔされた組織にしか、Ｃｒｅａｔｉｖｅ Ｓｃｈｏｏｌとしての教育を実践し、存在感を示していくことはできません」との見解を示します。

【21 世紀型教育の内容】

同校では 21 世紀型教育を実践することによって、生徒が変化を恐れず課題と向き合い、他者との協働で有効な合意＝多様な解を認め合う精神を育み、安易なレベルで妥協しない、創造性豊かな青年になることを目指しています。

現在、同校の 21 世紀型教育は、グローバル教育(Ｇｌｏｂａｌ Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ＝ＧＥ)３・０の途中段階ですが、何時の日か、多くの生徒がＧＥ３・０を達成できることを願っています。下の表は、次のアからカまでの６つの項目について、ＧＥ３・０に該当するレベルを示したものです。

ア　ＣＥＦＲ：Ｃ１
イ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ：ＰＢＬ×ＳＴＥＡＭ
ウ　Ｇｌｏｂａｌ Ｎｅｔｗｏｒｋ：Ｇｌｏｂａｌ Ｉｍｍｅｒｓｉｏｎ
エ　Ｗｅｂ：Ｗｅｂ３・０
オ　思考力：批判・創造
カ　大学入試：グローバル高大接続試験

工学院大学附属中学校 高等学校

グローバル教育(GE)3.0

	GE1.0	GE2.0	GE3.0
CEFR	A2	B2	C1
Learning	Lecture	Active Learning	PBL×STEAM
Global Network	語学研修	留学	Global Immersion
Web	Web1.0	Web2.0	Web3.0
思考力	知識・理解	応用・論理	批判・創造
大学入試	センター試験	入学共通テスト	グローバル高大接続試験

表　Global Education ３．０
提供・21 世紀型教育機構

同校では、ＧＥ３・０への到達は、カリキュラム・テキスト・指導法等々を確立して、さらに生徒も教師も、ともに学習者であるという意識をもってこそ成し遂げられると考えています。そして、日常の教育活動のなかでプロジェクトベースの学習を続けることによって、Ｃｒｅａｔｉｖｅ Ｃｌａｓｓの若者を育成できると信じています。

平方校長は、同校の 21 世紀型教育は

着実に深化しているといいます。

【ＩＣＴの整備・活用】

21世紀型教育の実施に欠かせないのが、ＩＣＴの力です。

平方校長は、「ＰＢＬ型授業を適切に実施していくには、ＩＣＴを活用しなければならない」と語ります。

同校では、すべての教室に電子ボードとＷｉ-Ｆｉを設置するなど、ＩＣＴを活用できる学習環境を整備しています。授業では映像や画像がふんだんに使用されています。また、中学生全員がｉＰａｄ（２０２１年度の新入生からはパソコン）を、高校生は全員がＢＹＯＤで各自のパソコンを所持しています。

この環境の下、生徒はさまざまな情報を上手に活用することによって、自分の考えをまとめ、効果的に発表する技術を習得していきます。

同校は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和２年２月末から６月中旬まで臨時休校を余儀なくされました。このとき、中学校、高等学校の全生徒がｉＰａｄ、各自のパソコンを所持していることが、スムーズなオンライン授業の実施を可能としました。

４月からは、オンラインによるホームルーム、授業を行いました。最初は慣れることから始め、最終的には時間割どおりの６時間授業を行いました。オンデマンドによる一方通行の授業ではなく、すべて双方向型の授業でした。

禍（わざわい）の中にあった時期でしたが、「この間にＰＢＬ型授業とグローバルオンラインエデュケーションのレベルが一気に加速しました」と平方校長は振り返ります。そして、「全国の学校がオンライン教育の必要性と可能性を痛感しました。これからはグローバルオンライン教育を止めることはできません。しかし、安易にしかも盲目的にオンライン教育を推進することは、健全な人格形成に大きな影を落とす可能性があります」と続けます。

ＩＣＴを活用した高等学校の授業

【ハイブリッドクラス・コース】

同校では、生徒の志望進路に応じて、中学校に３つのクラス、高等学校に４つのコースを設置しています。

○中学校
・ハイブリッドインターナショナルクラス
・ハイブリッド特進クラス
・ハイブリッド特進理数クラス

○高等学校
・ハイブリッドインターナショナルコース
・ハイブリッド文理コース
・ハイブリッド文理先進コース
・ハイブリッドサイエンスコース（医歯薬理工）

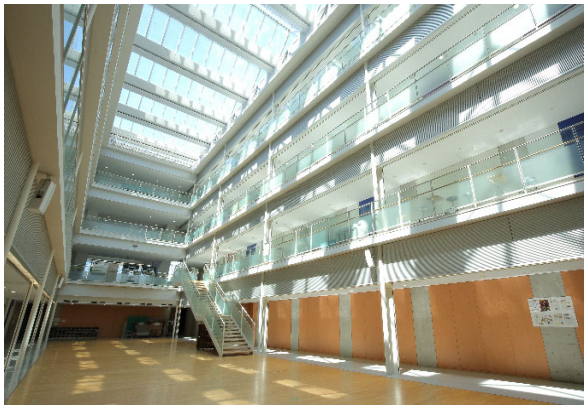
中学校の３つのクラスが、高等学校の４つのコースに接続するよう設定しています。

すべてのクラス、コースに「ハイブリッド」という言葉を冠しています。現在、国内の中学校、高等学校で、この名称が付くクラス、コースを持つのは同校だけです。

「ハイブリット」に込める思いについて、平方校長は次のように語ります。

「ハイブリットとは、『多言語・多文化』を意識して名付けたものです。コロナ禍とともに世界は一変し、グローバル社会は変容を続けています。２０３０年、２０４０年に世界（社会）の中心で活躍する若者は、今の小中高生です。彼らはデジタル・ネイティブであるＺ世代の若者たちです」、「ウィズコロナ時代はＩＣＴの技術革新がより顕著になるでしょう。それは同時に、『デジタルトランスフォーメーション』が教育現場でも避けて通れないことを意味します。生徒にはそのようなコラボレーションの未来を意識し、社会から必要とされる人に育ってほしいと願います」

令和３年春、「ハイブリッド一期生」は、新たなフィールドを歩み始めます。


明るい吹抜けのある高等学校校舎

【取材を終えて】

同校の21世紀型教育は、黄金律＝基本原理を「己の欲するところを人に施しなさい」に置きます。

「他者のために」。そこからは、時代を超えた人間教育を感じ取ることができました。

「生徒たちは、自分の未来をデザインして実現する力を形にできるようになってきました」。平方校長の言葉が印象に残ります。未来社会で輝く、柔軟な発想と創造力を持った若者を育てる21世紀型教育の深化の表れと考えます。

若者たちがその未来社会で活躍する日は、すぐそこまで来ています。そのとき、一人ひとりの心の原風景には、この学校で過ごした日々があるはずです。

（取材）私学経営情報センター